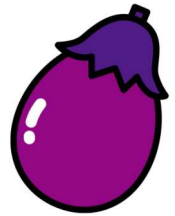


# MIYAFU LEARNING MODEL

## 新たな学びの可能性を探ろう

# ナスビの学校



分散型登校の最終日、生徒たちにアンケートに回答してもらいました。そのアンケート結果から「新たな学び」への期待が見えてきました。

### 「未来づくり」をしよう

まずは下部のグラフをご覧ください。これは分散型登校の最終日、全校生徒を対象に実施したアンケート結果です。休業中の様子や分散型学習への取組が見える化されています。

このアンケート結果には、分散型学習を始めるにあたって提案した「学びのモデル」の成果と課題が反映されています。その成果と課題とはいったい何なのでしょう。この問いに、私たちが、そして生徒たち一人一人が向きあい、答えを出していくことが必要です。人材育成や組織開発を研究している中原淳さんは、「サーベイ・フィードバック」という本のなかで、「①見える化、②ガチ対話、③未来づくり」という3つのステップを大切にすることを主張しています。「見える化」

び」をつくっていくためのヒントが詰まったものです。宮大附属中の授業は、もっともっと進化していきます。

### 良い流れを大切に

分散型学習では、一教室あたりの人数が少なかったこともあり、非常に落ち着いた流れを、ここでも大切にしたい。ここで生まれた流れを、これからも大切にしていくことが必要です。教室の人数が通常に戻ることで、授業にも活気が生まれたり、意見の交流による思考の深まりが見られたりするようになるでしょう。だからこそ、一人一人の授業へ臨む態度が重要となります。質問15にあるように、「自分の(授業への)取り組みが仲間に影響することを自覚して授業に臨むこと」が大切です。集中している仲間がいるほど、相乗効果により、学級全体の集中力もアップします(もちろん、その逆もあります)。分散型学習が終わりに、学校が再開できた今だからこそ、それぞれの教室のなかに「学び合う集団」「学びに向かう集団」が生まれていくことを期待しています。「新たな学びの可能性」をこれからも探っていきます。

